医療保険制度一本化の早期実現など全８項目を採択

国保制度改善強化全国大会

国保中央会など国保関係９団体主催の国保制度改善強化全国大会は、１２月２日（木）、東京都の日比谷公会堂で開かれ、全国から 1,000 人以上が参加した。医療制度一本化の早期実現をはじめ、政府で検討されている新たな高齢者医療制度について万全の措置を講じることなど８項目の決議を行った。

大会では、主催者を代表して国保中央会の岡﨑誠也会長（高知市長）が挨拶し、政府が検討中の新たな高齢者医療制度について国保財政の負担を増やさない、また国民に混乱を招かない対策が重要と強調した。

藤村修厚生労働副大臣、片山善博総務大臣（代読：平嶋彰英総務省大臣官房審議官）のほか、与野党から代表として民主党の梅村聡高齢者医療制度改革ワーキングチーム事務局長、自民党の田村憲久厚生労働部会長が来賓挨拶を行い、いずれも国保財政の安定化、そして新たな新高齢者医療制度の確立を課題とし、今後取り組んでいく姿勢を示した。

この大会には、京都府から市町村長、国保組合理事長など約２５人が参加、大会後は代表陳情として自民党班に参加した。

決議事項は次のとおり。

１．医療保険制度の一本化を早期に実現すること。

１．新たな高齢者医療制度を構築するに際し、国保財政の負担増と国民に混乱を招くことのないよう地方自治体の意見を十分に尊重しつつ、万全の措置を講じること。

１．高額医療費共同事業・保険基盤安定制度・財政安定化支援事業など国保財政基盤強化策の拡充強化を図るとともに、従来の枠を超えた国庫負担割合の引き上げ等について検討すること。

１．特定健診・保健指導の円滑な推進のため保健師等必要な人材確保と所要の財政措置を講じること。

１．地域医療体制の充実強化のため、医師や看護師等の絶対数の確保や地域偏在等の解消を図るとともに、総合医を育成するなど、医師確保対策を強力に推進すること。

１．診療報酬体系の合理化を推進すること。

１．被保険者資格喪失情報の届出を義務化すること。

１．国民健康保険組合の健全な運営を確保すること。